

## 平成 25 年度「授業評価・授業研究報告『衣生活論』」

家政教育専修・眞鍋郁代

### 1. 授業の概観

本授業は，衣服のはたらきを学習し，ここで得た知識を自身の快適な衣生活のために生かすことを目的としている．身近な日常生活の現象を“なぜだろう”という疑問を持ち，身近なもので実験道具を工夫して作り，調べてみようという意欲を持たせ，実験の成果を生活に結び付けて生かすことができる家庭科の実験によって，実験の楽しさを知らせることができると考えている．

以上の考えから本授業では，講義形式の授業で被服材料の成り立ちや性能，原理などについて発問形式を取り入れてまず気づかせ，配布資料等を読んで確かめ，図・写真によってわかるように工夫し，さらに簡易な実験やモノづくり等によって考え・応用できるような授業構成とした．

### 2. 授業評価法 と 3. 授業評価結果について

調査項目を以下に述べる．またそれぞれの質問項目における回答人数も（ ）内に併記した．なお，最終的に授業アンケートに回答した学生数は全部で 16 名であった．

A あなた自身についてお聞きします．

- (1) この授業にどのくらい出席しましたか．  
① 全部（6 名） ② 1,2 回欠席（9 名）  
③ 3,4 回欠席（1 名） ④ 5 回以上欠席（0 名）  
⑤ わからない（0 名）
- (2) この授業に関して授業時間外の学習時間は 1 回の授業ごとにどれくらいしましたか．  
① 2 時間以上（0 名） ② 1～2 時間（4 名）  
③ 30 分～1 時間（6 名） ④ 30 分未満（6 名）
- (3) 授業に対して意欲的に取り組みましたか．  
① 十分に取り組んだ（7 名） ② かなり取り組んだ（5 名） ③ 普通（4 名） ④ あまり取り組まなかった（0 名） ⑤ 取り組まなかった（0 名）
- (4) この授業を履修した理由（①科目名と③シラバスの内容 両方選択した者 2 名を含む）  
① 科目名（8 名） ② 担当教員（2 名） ③ シラバスの内容（7 名） ④ 時間割の都合（1 名） ⑤ その他〔自由記述〕（0 名）

B 授業についてお聞きします．

- (1) 先生の話し方（言葉・声の調子など）は適切でしたか．  
① そう思う（8 名） ② どちらかといえばそう思う

（6 名） ③ どちらともいえない（2 名） ④ あまりそう思わない（0 名） ⑤ そう思わない（0 名）

(2) 板書やパワーポイントの字や図の表現は適切でしたか．

① そう思う（12 名） ② どちらかといえばそう思う（4 名） ③ どちらともいえない（0 名） ④ あまりそう思わない（0 名） ⑤ そう思わない（0 名）

(3) 先生は学生が質問や意見を述べられるように配慮しましたか．

① そう思う（11 名） ② どちらかといえばそう思う（4 名） ③ どちらともいえない（1 名） ④ あまりそう思わない（0 名） ⑤ そう思わない（0 名）

(4) 配布資料，教科書などの教材は適切でしたか．

① そう思う（11 名） ② どちらかといえばそう思う（3 名） ③ どちらともいえない（2 名） ④ あまりそう思わない（0 名） ⑤ そう思わない（0 名）

(5) 授業の内容は興味関心が持てるものでしたか．

① そう思う（10 名） ② どちらかといえばそう思う（6 名） ③ どちらともいえない（0 名） ④ あまりそう思わない（0 名） ⑤ そう思わない（0 名）

(6) 授業の内容は理解できるものでしたか．

① そう思う（10 名） ② どちらかといえばそう思う（6 名） ③ どちらともいえない（0 名） ④ あまりそう思わない（0 名） ⑤ そう思わない（0 名）

(7) この授業を全体的にみたときに，どの程度満足していますか

① 満足している（10 名） ② どちらかといえば満足している（6 名） ③ どちらともいえない（0 名） ④ あまり満足していない（0 名） ⑤ 満足していない（0 名）

【この授業を受けて①良かった点②改善した方がよいと思われる点を具体的に挙げてください】  
（自由記述）

① 良かった点に対する回答

- 自分で実践できることが多かったから．
- 実験をすることで知識を定着することができた点
- 実験を多く行なったので，それぞれの内容について体験的に学ぶことができた．
- パワーポイントやワークプリントが適切に使用されており，わかりやすかったです．
- プリント，パワーポイントが分かりやすかった．（後から見直したときに要点を整理しや

すい.)

- パワーポイントが分かりやすかった. 資料をたくさん配ってくれたので分かりやすかった.
- ②改善した方がよいと思われる点に対する回答
  - × 少しプリントの量が多くて困るので, できるだけまとめてほしい.
  - × 実習をもう少し取り入れる.
  - × 課題や実習をする際もう少し詳しく説明してくれると分かりやすい. (どういう布が適切かなど.)

次に, 本授業と教育学部 DP との対応についてである. 卒業時に身につけるべき到達目標として, DP1. (知識・理解) 1A (教育的知識)・1B (専門的知識), DP2. (思考・判断) 2A (現代的諸問題)・2B (適切な対応), DP3. (技能・表現) 3A (高い技能)・3B (豊かな表現力), DP4. (関心・意欲) 4A (自己学習課題)・4B (主体的な学習意欲), DP5. (態度) 5A (使命・責任)・5B (対人関係力), が定められている. それぞれの評価調査結果は以下の通りである. (調査人数 11 名)

DP1. (知識・理解) 1A (教育的知識)	十分貢献した (3 名) 貢献した (8 名) 計 100%
DP1. (知識・理解) 1B (専門的知識)	十分貢献した (5 名) 貢献した (6 名) 計 100%
DP2. (思考・判断) 2A (現代的諸問題)	十分貢献した (4 名) 貢献した (4 名) 計 73%
DP2. (思考・判断) 2B (適切な対応)	十分貢献した (4 名) 貢献した (4 名) 計 73%
DP3. (技能・表現) 3A (高い技能)	十分貢献した (3 名) 貢献した (8 名) 計 100%
DP3. (技能・表現) 3B (豊かな表現力)	十分貢献した (4 名) 貢献した (5 名) 計 82%
DP4. (関心・意欲) 4A (自己学習課題)	十分貢献した (4 名) 貢献した (5 名) 計 82%
DP4. (関心・意欲) 4B (主体的な学習意欲)	十分貢献した (4 名) 貢献した (4 名) 計 73%
DP5. (態度) 5A (使命・責任)	十分貢献した (4 名) 貢献した (7 名) 計 100%
DP5. (態度) 5B (対人関係力)	十分貢献した (3 名) 貢献した (6 名) 計 82%

#### 4. まとめ

授業アンケート結果より, この授業に関する問いのうち, 履修者の授業への取り組みについては約 8 割の学生が「十分に」または「かなり取り組んだ」と回答している. また, 授業への興味関心を持てたか, 理解はできたか, どの程度満足できたかについては, 16 名中 10 名が「そう思う (満

足している)」、残り 6 名が「どちらかと言えばそう思う (どちらかといえば満足している)」という回答を得, おおむね評価が高かった. 授業が理解できたかについて, 履修者全員から「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答を得た点については, 授業者としては少し安心したともいえるが, その一方で, 授業のレベルをまだまだ上げる必要があるのではないかとも思われた.

授業者の話し方が適切か, 板書やパワーポイントが適切であったか, 担当教員が学生の質問や意見を述べる配慮をしていたかについて, 8 割以上の履修者が, 「そう思う・どちらかと言えばそう思う」と回答していた. また, 自由記述による評価①この授業の良かった点については, 実験実習が多かったことによる楽しさ, わかりやすさや, 配布プリントやパワーポイントのわかりやすさを挙げるものが目立ったが, 配布物の内容に関しては例年と大きな違いはなく, 授業者としては, 今年度履修者の理解能力が高いためであるように感じられた. ②改善した方がよい点については, 配布資料や授業者の指示に対する改善を求めるものが挙げられ, 授業者として配布資料の内容についても実験実習の指示についても, 履修者に対して, 伝えることに意識を向けた改善を図っていきたいと考えている.

もう一点, 3 年前の同授業アンケートでは製作実習について, 時間内に確実に終了できる教材への変更を望む意見が大変目立っていたが, 今年度は逆にもう少し取り入れてもよかったという意見があった. しかし, 製作実習における今回の変更は, まずまずよかったように思われた.

最後に, 本授業と教育学部 DP との対応について考える. 卒業時に身につけるべき到達目標のうち, DP1. 1A (教育的知識の修得) 1B (専門的知識の修得) DP3. 3A (高い技能の修得) DP5. 5A (使命・責任感の形成) については, 本授業が何らかの貢献を果たしているという評価を受けた.

その反面, DP2.2A (現代的諸問題) 2B (適切な対応), DP4. 4B (主体的な学習意欲) に対してこの授業が貢献したと考える者は 7 割程度にとどまった. 教育をめぐる現代的諸課題についての取り扱い方や理論と実践とを結びつけた主体的な学習への意欲の喚起について, もう少し意識して工夫することが課題として残った. 本授業を受講することで, 衣生活分野に対する興味・関心・理解を深めていくことを軸として, 現代的諸課題についての取り上げ方・伝え方を意識して改善することにより, 理論と実践を結びつけた主体的な学習へ履修者がつなげることができるのではないかと考えられた.